

2024年3月期 会社説明会の質疑応答

Q：経営統合後は負ののれん益や統合費用など一過性の損益要因が大きく、ベースとなる利益水準が見えにくくなっている状況だが、統合費用がなくなる2025年度の利益のレベル感ほどの程度になると見ているか。また、2030年度の利益目標は195億円となっているが、第2次中計最終年度となる2027年度の利益水準のターゲットはどの程度か。

A：2次中計期間においても店舗再編等により、3年間で25億円程度必要となると見ており、統合関連費用の影響が無くなる3次中計最終年度の2030年度をターゲットに置いている。2023年度については統合関連費用を除いたコア業務純益は211億円となっている。正確なシミュレーションではないが、仮に日銀が追加利上げを行い短期金利が0.25%、長期金利1.0%程度に上昇した場合、2030年度には貸出金利息は2023年度と比較して80億円程度増加すると見ている。2030年度の当期純利益目標195億円は金利上昇を見込んでいないものであり、ここをボトムとして利益水準は上がると見ている。

Q：政策保有株式の縮減により150億円程度の売却益が見込まれるとのことだが、2030年度の当期純利益目標195億円の外側にあり、プラスアルファであるというイメージか。

A：もともと縮減目標を掲げており全てが外側ではない。どの銘柄を売却するかにもよるが、プラスアルファとはなる。

Q：100円を下限に総還元性向30%を目処としており、現時点では配当利回りがかなり高い水準となっているが、逆算すると最終利益が150～160億円程度となれば増配が現実味を帯びてくると見てよいか。

A：そのとおりと考える。

Q：貸出について、愛知県は金利競争が厳しいとの認識だが、市場金利が上昇している中でスプレッドの水準感に変化はあるか。

A：市場連動貸出は若干上昇している。短プラベースの貸出が45%程度を占めており、今後の追加利上げにより短プラ引き上げとなれば利回り上昇も期待できる。愛知県は競争環境も厳しく、銀行から金利の引き上げ交渉があった場合、引き上げない他の金融機関に変わるとの回答が多い地区であるとの調査結果もある。契約で自動的に上がるお客さま以外は交渉となり、全てが引き上げできる訳ではなく、追随率にもよるが全て引き上がるまでには5年程度必要と見ている。

Q：シェア調整について、前回の説明会では特段影響ないとのことであったが、2行の貸出や預金の動向はかなり異なっており、今後合併しあいち銀行となるにあたりそれぞれの目線をどう見ておけばよいか。

A：銀行側からシェア調整は行っていない。2022年10月の経営統合後、12月からは両行で取引のあるお客さまについては窓口を一本化している。お客さまにどちらかを窓口にするか選んでいただき合算で管理している。中京銀行では統合前に大規模な店舗再編を行っており、三重県や奈良県の店舗を閉鎖したこともあって預金貸出とも減少となっている。加えて、2023年4月からは住宅ローン営業は愛知銀行に一本化しており、中京銀行のローンアドバイザー12名は愛知銀行へ出向してもらっている。中京銀行では原則住宅ローンは増加せず返済のみとなっており、貸出については預金FG全体で見ていただく必要がある。

Q：アセットクラス別粗利 RORA・ROA について、縦軸の RORA は一番高いのは有価証券で横軸の ROA が高いのも有価証券でありここを強化すると判断をするのか、個人向け貸出は両方とも低いので減らす判断をするのか、あるいは、粗利なので経費や信用コストを控除すると全く違う見え方となるのか、この表はどのような見方をすればよいか。

A：それぞれのアセットクラスに関するコア業務粗利益を、それぞれのリスクアセットで割ることで算出したものである。粗利益は各アセットに関連する利息収入と役務収益から役務費用と調達費用を控除している。役務関連については、例えばソリューション関連手数料は中小企業向けに、預金や貸出に関する手数料は大・中堅企業や中小企業向けに入れて計算している。個人向けには住宅ローン手数料を入れていて一方で団信保険料を控除している。有価証券には有価証券利息配当金等が入っているが株式3勘定や債券5勘定は入っていない。また、それぞれのアセットクラスに分けることが難しい為替手数料等は入っていない。例えば、住宅ローンは金利が低く個人向け貸出はこの位置になってしまうが、その個人の方が預金や預かり資産、マイカーローン等、取引の広がりによりこの表に現れていない収益へと繋がっていく。個人向け貸出や中小企業向け貸出を、いかに右上を持っていか、メイン化を図る施策を取っていくことが重要であり、そのイメージである。

Q：県内でのプレゼンスについて、これまで規模では名古屋銀行、愛知銀行、中京銀行の順であったと思うが、名古屋銀行より規模が大きくなったこと、かつフィナンシャルグループということで県内のお客さまからの見方が変わったか、感じていることはあるか。

A：合併により県内での預金や貸出はトップにはなるが、数字で地域のお客さまの見方が変わったということはないと思う。肌感覚や地元のマスコミのみなさんの反応等を見ると、単独でやってきて時と比べると期待の大きさは感じている。期待を裏切らないようやっていきたい。

以上